

## 市長と語ろう！タウンミーティング 会議録

日 時：令和元年11月21日（火）19：00～20：40

場 所：黒部市文化センターコラーレ マルチホール

テーマ：黒部市総合戦略「戦略K」の第2ステージに向けて  
～大自然と人が輝くシンフォニー～

参加者：153名

### 【事務局】

会場にお集まりの皆様、本日はお仕事帰りでお疲れのところ、あるいはご家庭の団欒のお時間を頂戴し、このように沢山の方にお越しいただき誠にありがとうございます。ご案内の時刻になりましたので、ただいまから令和元年度「市長と語ろう！タウンミーティング」を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます、黒部市役所企画政策課の中井と申します。不慣れではございますが、皆様のご協力を賜り円滑な進行に努めたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて本日のタウンミーティングのテーマは、『黒部市総合戦略「戦略K」の第2ステージに向けて～大自然と人が輝くシンフォニー～』でございます。

はじめに市長からテーマについてお話しさせていただきます。会場の皆様には正面のスクリーンをご覧になりながら、お聴きいただきたいと思っております。説明の後、会場の皆様方から順次、ご意見やご提言をお受けし、意見交換することとしております。終了の時間は午後8時30分頃を目処としておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。今後の他のミーティングの参考とさせていただくほか、お時間の都合等でご発言できなかった皆様からもご自由に意見を書いていただき、市政運営の参考とさせていただきたいと思っております。お帰りの際に受付で回収いたしますので、どんな簡単なことでも結構ですので記載いただければ大変ありがたく存じます。

それでは早速始めさせていただきます。大野市長から本日お集まりいただきました皆様へのご挨拶と、市長がテーマについてご説明致します。市長、よろしくお願いいたします。

### 【市長】

皆様、こんばんは。

冒頭からお許しを頂きたいことからお話いたします。恋煩いも嫌ですが、声煩いをいたしておりまして、熱の出ない風邪をこしばらくひいていました。タウンミーティングで声が出るか心配しておりましたが、ようやく昨日から上り調子になってきましたので、まだガラガラの声を出しておりますけど、私の持ち時間は十分喋れると思っております。担当課から声が出る、出ないは別として、長くても30分でやめろと言われておりますので、残り時間は十分皆様方からご意見賜りながら、意見交換を致したいと思っております。

晩秋の中の美しい紅葉、いよいよその中でも初冬の気配を感じるようになりました。今日はどちらかというとお天気が良かったのですが、大変寒い時間になりました。皆様方にはこうしてこぞってタウンミーティングにお越し頂き、誠にありがとうございます。私に関わる行事があるとよく晴れると言われておりまして、晴れ男と冷やかされますが、今日はその気になって喋りたいと思っております。

(資料 2 ページ)

今日は総合戦略「戦略K」という話ですが、この話をする時は日本の国がここまでどう国づくりをしてきたか、その骨格を話しておかないと分かりづらいと思いますので、私の認識を含めて話をします。

戦後の日本、いわゆる1945年8月15日、終戦とともに大変な混乱と虚脱状態の中でここまで進んでまいりました。昭和25年、この話をする原点ともいえる国土総合開発法が制定されました。その法律に基づいて昭和30年代、40年代、50年代と、大体10年のスパンで国づくりの総合計画が立てられてきました。30年代はいわゆる第1次旧全国総合開発計画、40年代に新総合開発計画、50年代に三全総と言われる第3次全国総合開発計画と続きまして、呼応するように都道府県、それに地方自治体、市町村も総合計画を立てながら、まちづくりをしてきたわけです。つまり、その総合計画をもって、各自治体の最上位の計画としていろんな計画を立て、事業を組みながらここまで来たということです。

その中、戦後、必死になって日本は国づくりに取り組んできました。高度経済成長の波に乗って、乗って、乗りまくりました。結果、日本列島にゆがみとひずみが出ました。人や物が大都市を中心に太平洋ベルト地帯に集まりすぎました。東京や名古屋、大阪を中心にです。三全総の頃に、このままの日本の国づくりではいけないということで、30年代は必死になってやってきた所得倍増計画、40年代は日本列島改造論。50年代の三全総は、その反省に立って福祉型国家を作らなきゃいかん、四文字で言うと物や人が「一極集中」しすぎた日本列島のいびつな形を変えるため、多極分散型にするために取り組んできたのですが、四全総、五全総と進むにしたがって、なかなかそれが思う通りにいかなかった。結果、法律そのものも全国総合開発計画から国土形成計画法に切り替えた。今まで作り上げてきたものを大事にしながら、そこにある郷土の歴史、民俗、文化、郷土芸をいかに保存、継承、大事にしていくかという取り組みが始まりました。

つまり、もっと地域を大事にしなきゃいかんということで取り組んできたのですが、結果、人や物の一極集中は是正されなかった。その中で何があったかと、あえて国のことを申します。国は地方にいろんな助成、補助金をするとき、同じようにやってく傾向があったんですね。言うなれば金太郎飴です。日本列島は北海道から沖縄まで細長い、そこに同じ様にやっていっては個性のある地域ができるわけがないです。そのことは私も議員生活、市議会、県議会含めて27年間務めさせていただきまして、いつもそのことは気にしてきました。そういった中で国は、まち・ひと・しごと、地方創生総合戦略ということで取り組みを始めた。私は大正解だと思います。地方創生、一極集中、多極分散、同じ四文字でもかなり意味が違うと思う。地方をいかに新しく作るか、誰が作るか。国ではない、地方に住む人々が力を合わせて知恵を出し合って、自分の地域をどう作っていくかということに、心を懸ける。そして、国や県はそれを応援する。いいアイデアには支援している。そういったものが、まち・ひと・しごと、地方創生にある。それをベースにして黒部市も第一次総合振興計画、この10年間を平成29年度で終えました。

昨年の4月、私は市長に就任させて頂きましたが、その時から第二次の総合振興計画が始まりました。今年二年目であります。総合振興計画というのは、先程申し上げた通り、その自治体の最上位計画です。概ね10年スパン、それを前期・後期5年に分けて取り組んでいます。全国ほぼ同じです。その中で総合振興計画を最上位にもってきて、それをベースに一番頭に置きながら黒部の戦略をどう持っていくか。まち・ひと・しごと、地方創生総合戦略、それをにらみつつ、黒部らしい戦略を作っていく。

ここ(第1次総合振興計画)とここ(第2次総合振興計画)に注目して欲しいのですが、先程申し上げた通り、総合振興計画はこういう風になっております。ここ(第1次総合振興計

画)はもう終わりました。今、ここ(第2次総合振興計画)に入っています。そして、国のいう地方創生の事業が実はここ(H27~R元)にあったんです。市としては第二次総合振興計画が進捗中、令和元年度が2年度目です。3年、4年と進んでいき、ここ(第1期総合戦略)の5年間は実は今年度で終了する。国の終了と合わせて、黒部市も最上位計画を持ちながら、黒部の「戦略K」というものをどう作り上げていくか。国はここにおいて、実は新たなまち・ひと・しごと5ヶ年計画を立てています。そうすると黒部市は5ヶ年すると、第2次総合振興計画の後期に絡んでしまう。前期をひとつの区切りとしてやっていくために、黒部市ではあえて国の5年間の計画を、第2期の「戦略K」を、この3年間でやっていこうとしています。

今日ここで、皆さん方から頂ける意見をふまえて、これからかかります令和2年度の予算、あるいは「戦略K」の中に活かしていけるものは活かしていきたい、という思いをもって今日は来ています。従って、皆さんのご意見で良いものもあれば、新たに予算の中に活かしていけるかもしれません。

(資料 3ページ)

それを考えた時に、人口の問題があります。左のグラフはいわゆる亡くなった方、生まれた方、自然増減です。見られた通り、死亡が圧倒的に上回っている。どこもこういう状況であるわけですが、右側を見てください。黒部市においては、最近YKKさんを中心にしながら本社機能の一部を地方に移転する。そういった取り組みをしていただいている結果、このように前半は転入か転出か多い年がまばらですが、最近3年間は社会増が上回っていると。平成30年においてはちょっと逆転しましたが、非常に面白い傾向が出てきています。自治体は何をやっているかということ、社会増に期待しています。それがここに出ています。

(資料 4ページ)

これは黒部市が描いている人口ビジョンです。国立社会保障人口問題研究所、略して社人研と言っていますが、ここも実はこの時点で黒部市に示した人口の将来推移をこのライン(緑色グラフ)で見えていました。2060年には24,930人になるだろうと見ていましたが、最近、社人研が黒部の人口予想を上げました。大変嬉しく思います。27,000人、つまり3,000人くらい上げた。その中で黒部市は、このライン(赤色グラフ)で目指して頑張っていきたいと。2060年、まだ40年先ですけども33,000人という目標値でいきたいというふうに思っております。

(資料 5ページ)

先程申し上げた、今年度で終わる黒部市の第1期の総合戦略でどういった事をやってきたか申し上げます。基本目標は4つあります。

(資料 6ページ)

まず、「雇用を創出し、活力ある地域をつくる」、これに取り組んできました。先程申し上げた、なんといっても黒部市は世界に羽ばたくYKKという大きな会社があります。このあたりが黒部市を拠点に新たな動きがあるということで、本社機能の一部を移転するというようなことと同時に人も移転してきます。この素晴らしいパッシブタウン、皆さんご覧になってください。なかなか公の仕事ではできないことではないです。民間の素晴らしい力で取り組んで頂きました。当然、道路とかの仕事は市がやります。あるいは県がやります。そういった事ではありますが、なかなか全国で見ても、これだけのことを民間がやってくれることはないです。新幹線駅があるのは黒部市としては大変ありがたい取り組みであります。こういったことがあって雇用の環境も充実をしてくと。この中でまた働き方改革ということも問題にはなっておりますが、この雇用の環境の充実がなされていると。それから基幹産業、これを支援していく。基幹産業といいますと、ついつい商工業のことを思うことが多いですけど、農林水産業もこれからますます大事です。これは特徴を出していく、ブランド化していく、あるいは独自産業化していく。さらには米に特化した農業の変化として、業者たちは黒部の素晴らしい美味しい米を

いかに輸出していくか、そういった事を考えていく。それが、一つの農業に関する基幹産業育成ということでもあります。

(資料 7ページ)

次は、基本目標の2つ目です。「交流を促進し、人を呼び込む地域をつくる」という事があります。ご案内の通り、黒部峡谷パノラマツアーというのをやっております。あと4年半ぐらい経ちますと、宇奈月の櫛平からまっすぐ黒部ダムへ全面的に一般開放で商品化されます。このツアーはご覧の通り、堅坑と言われるエレベーターを使って上の方まで行くという取り組みですけど、これにつきましても非常に人気がありまして、毎年だいたい1万人位の方々が参加をされているという事があります。

それから、交流・移住・定住の促進。これはまさに地域を活性化させていく重要なポイントです。いかにして交流を進め、その中から移住される方、そしてまた定住される方をつくっていくかという事があります。そのための取り組みとして、例えば雪国でない方、雪のない所に住んでおられる方、突然来ますと大変な運転になってしまいます。そういった事で、その方々が雪国でも上手に運転できるように、ドライビングの講習を受けるというようなこと、それからずっと黒部は続けておりますが、例えば東京の都会に住む子ども達をこちらへ呼んで都市農村の交流を行うと。この事業は非常に人気がありまして、都会の方に聞きますと毎年応募者がオーバーフローするそうです。来たい子が来れないというぐらい人気があると、こういったことが事業を進めていく中において、黒部のことを理解してもらえるし、将来子ども達が社会人になってくる、黒部に住みたい、富山の大学に行きたい、黒部に勤めたい、という子が出てくる可能性が十分ある。一朝一夕で答えは出てこないわけです。こういった事の積み重ねが大事というわけです。

(資料 8ページ)

基本目標の3です。「結婚・出産・子育ての希望が叶う地域をつくる」、なかなか難しい問題です。どうやって出会いの場を作るのか、作ろうとしてもなかなか来てくれない。諦めずにボランティア精神をもって献身的に頑張ってくださいる方もいます。それに参加される方もおられます。実際に、この婚活イベントに平成30年で参加された方、男女合わせて121名。その中で14組のカップルが成立しています。今年、婚活イベントで3つの支援がありました。参加者も昨年より増えて157名、しかし残念ながら9組のカップルになっています。カップルがその後どうしたか。ここまではプライバシーに入るので結婚まで至ったかどうかは、調べてありません。自治体によってはそこまで追求しているところもあるようです。黒部はどうするか、これからです。とにかく、カップルが誕生したという事実がありますので、こういった事もしっかりとやっていくことが大事ななと思っております。

統合に向けた中学校整備、教育は基本であります。人間を作り上げていく、いよいよ来年の春には、宇奈月中学校、桜井中学校が一緒になりまして1校になる。明峰中学校。そして、高志野中学校と鷹施中学校が一緒になります。清明中学校。清明中、明峰中という2つの学校が出来上がります。ついでに申し上げますと、今の予定では3月14日に一気に閉校式を行います。

(資料 9ページ)

4つ目です。「快適な暮らしを実現し、愛着ある地域をつくる」、このことは大事であります。交通ネットワーク、我々も苦労しています。皆さん方の足をどう確保するか。どう黒部市内を動きやすくするか。公共交通機関、おそらく一人お一人の意見を聞くと、いろんな意見があって満足だという方、いやこれじゃ困ると、私の家まで、ここまで何とかしてくれ、そういった事を聞きながら、一部試行錯誤といってもいいでしょう、そういった事をやりながら、都市基盤の充実を図っております。非常に難しい問題であります。なんといたしましても、民間

の方だけでやれること、行政だけでやれることありますけど、双方が力を合わせてやっていくと言うことが一番大事なんだろうなと思います。

その中で黒部市としては、この右側に写真ありますね、健康で安心して暮らせる地域の実現ということで、公募提案型協働事業というのをやっております。中にはまだ、この事業が黒部市にあるというのを知らない方もありますので、今日こんなに沢山来られましたので、あえて説明しますけど、この事業は地域の中でしっかり皆さんと手をつないで、お互いにいきいきとやっていこうということで、一つの事業に市は30万円を上限に補助金を交付しています。具体的には、平成30年度は、若栗ではみどころガイド、田家では「いのちのバトン」事業、あるいは三日市の大町商盛会では、学生の考える賑わいづくりと商店街活性化ということ。そしてまた、「食」を通して「生きる力」を育む活動、さらには「歩いて楽しい！愛本さんぽ」促進事業、とこういったものが取り組まれ、それぞれ市から30万円ずつ補助しております。これを受けて令和元年度、今年はひとつ増えまして、6つの事業を展開しております。市民のアイデアを活かしたい、市民の提案型でまちづくりをしたい、賑わいをつくりたい、元気をつくりたいというところで、今申し上げた通り30万円というものを上限にして、皆さん方の提案型協働事業を推進しております。これらが5年間の第1期の「戦略K」で行われてきた取り組みの一部であります。

#### (資料 10ページ)

令和2年度から「戦略K」第2ステージに向かいます。国は今申し上げた通り、令和2年度から後期第2期ということで5年間やりますけど、うちは総合振興計画との整合性を持たせるために、3年間という期間で取り組もうとしております。その大きなポイントは、「健やか黒部、展やか黒部、朗らか黒部」であります。国も第1期のまち・ひと・しごと地方創生総合戦略をベースに第2期を進めようとしています。黒部市も今、第1期の「戦略K」をベースにして第2期を進めようとしております。この中で一番大きなポイントはどこかと申し上げますと、もっと地域の中にいろんな人を呼び込むための関係人口を増やしていく、地域に関係する人口を増やしていく、そこが1つのポイントになります。ここに記載されておりますこと、ほとんど第1期のものと変わりません。それは、国もそういう基本方針を出しておるからであります。国もさらに具体的なものは12月になってから出すと思います。我々もこれから、くどいようですが、今日来られたみなさんのご意見を伺いながら、これに基づいて具体的な取り組みを決定していきたいと思っています。これに書いてある通り、これから人生やりとり100年時代、あるいは関係人口、地域を応援する人口、そして持続可能なまちづくり、これを柱にしていきます。

#### (資料 11ページ)

「戦略K」第2ステージ、3年間。うちの総合振興計画では前期残り3年間のハード事業を説明します。道の駅「(仮称)くろべ」、総合運動公園、体育館の横でいよいよ工事が始まります。予定では令和3年度、具体的には令和4年の春ぐらいに完成を考えております。

(仮称)くろべ市民交流センター、これは旧市役所の跡地、あそこに図書館機能を中心として、あるいは現在ある働く婦人の家、市民会館、三日市公民館、こういったものをここでしっかりと機能を活かすための建物を造ろうとしています。ほぼ設計は完了しております。これは道の駅から約1年後、令和4年度、令和5年の春ぐらいに完成させる予定であります。

もう一つ大事なことは、地域において安全・安心という事。防災行政無線、これをデジタル化します。今、合併前の旧黒部市、旧宇奈月町、それぞれが持っており、アナログ方式でやっておりますけど、これをまとめてデジタル化に更新整備をする。このことを前期のうちに取り組んでいきます。細かい事はいろいろありますけど、新しいスピーカー、いわゆる子局を付けたりと、それから未設置の所にスピーカーを付けるとか、そういった事でデジタル化をして、

より地域の防災安全、安心対策を構築していくという事であります。こういった事が狙いで

(資料 12ページ)

「戦略K」の初年度となります令和2年度、ここにおいては来年の3月14日にいよいよ新幹線開業5周年の日を迎えます。今、5年目に入っています。5年目ですけど、5周年というのは、つまり来年3月14日です。従って令和2年度はいろんな事業で、新幹線開業5周年記念ということで取り組んでいきたい。もう一つは、来年はオリンピックの年です。パラリンピックの年です。健やか黒部躍進事業ということで、私はもともとスポーツが好きですけども、健康増進、スポーツ、これを中心に黒部を躍進させていこうという思いがあります。これが大きな令和2年度の重点事業であります。

(資料 13ページ)

今年の春はご覧の通り、ももいろクローバーZの大ライブがありました。2日間で1日1万5千人。こんな感じが2日間あったわけです。この中で会場にお越しになられた方、来れなかった方、あると思います。まさにこの通りです。どこから写真を撮ってきたわけではありません。宮野運動陸上競技場が2日間こんな感じだった、特設のステージです。これをやったことで、しばらくの間、私はももクロ市長と言われました。喜んでいいと思うんですけども、それくらい盛り上がった。この時も実は各自治体で手を挙げて、その中から主催者が会場を選ぶという事だったので、黒部が手を挙げてもどうかなってという不安はあった。全国で38カ所手が挙がりました。で、現地を見に来るとおっしゃったので、これはメンバーだと、一切忖度もしてませんし、賄賂も使ってません。ただただ出したのは、参考資料だけです。その中で黒部が決定した。素晴らしいことだったと思います。このような勢いをもって、これからもやっていきたいなど、出来るものは、ということです。大変見事だったと思います。

(資料 14ページ)

先程申し上げました健やか黒部躍進事業、是非、健康寿命を伸ばすためにも、さらには人生100年を本物にするためにも、頑張っていきたい。たまたま今年の名水マラソンは暑かった。お天気男と言われた私も、さすがにあそこまで暑いとちょっといき過ぎだなと、いう風に思いましたが、来年も是非、名水マラソンをやっていきたいと思っています。ちなみに今、皆さんもご存じかと思いますが、全国平均の寿命、女性は87.14、男性は80.98、それに対して健康でいる年齢、女性は74.79歳、平均寿命との差が12.35歳あります。男性は、健康寿命が72.14、平均寿命との差が8.84歳あります。この健康寿命をいかに伸ばすかという令和2年度の取り組みは、オリンピック・パラリンピックもあることですし、黒部市としてはその元年ぐらいの位置付けをして、市民42,000人の幸せと健康のために事業ができればいいな、というふうに思っております。

(資料 13、15ページ)

私に与えられた時間が来ましたので、もう一度ここ見てください。今年はももクロがあったから、来年は何かあるかと期待感持つことがある。なかなかああいうことはありません。しかし、芸術文化の振興ということで、ちょっと個人的な思いもありますが、市長になる前から私は、この素晴らしいコラーレの大ホール、ここを活かしてやりたいと思った事がありました。それは、世界で有名なウィーン少年合唱団を呼びたいと。内定しました。令和2年度ウィーン少年合唱団、黒部に来ます、よほどの天変地異がない限り。富山県内にもほとんど公言しておりません。ついに呼ぶことが成功しましたので、コラーレの来年は開館25周年もあるし、もう目玉商品としてウィーン少年合唱団、私は欲を出して2回か3回、公演やってくれないかと言っておるんですが、どうも無理ですね。1回、キャパ880名、おそらく市外から来ますから満員になって溢れると思います。心配なんですけど、とにかくウィーンを呼ぶという事に成功しまし

た。そういった事でまた令和2年度、皆さんも楽しみにして欲しいと思うんですが、ただ細かい事言いますと、皆さん方のいろんなリクエストもあると思うんですけども、難しいこともありますので、これから皆さん方に十分時間ありますんで、いろんなご意見、あるいはご質問出して頂ければありがたいと思います。ガラガラ声ですみません、有難うございました。(拍手)

#### 【事務局】

ただいま、市長からテーマについてご説明を致しました。この後、会場の皆様からご意見やご提言をお受けしたいと思えます。お手元の次第にも発言にあたっての注意書きが書いてございますので、ご一読ください。発言される方は必ず挙手のうえ、係りの者がマイクをお渡し致しますので、マイクを受け取られてから地区名や、あるいは所属団体とご自身のお名前を申し上げ頂いて、ご意見を述べて頂きます。個人的な要望や苦情等については、本日の趣旨に沿わないご発言となりますので、どうぞご遠慮くださいますようお願いいたします。

それでは意見交換を始めたいと思えますが、事前に発言通告を3組の方から受けております。有難うございました。まずその方々から順次御発言をいただきたいと思えます。また、このタウンミーティングでは、できるだけたくさんの方からご意見を頂戴したいと思っております。ご発言は、お一人3分以内で要点を簡潔にお願い致します。

それでは最初に、子育てサークル「くろてんズ」のH様お願い致します。

#### 【子育てサークル「くろてんズ」 Hさん】

子育てサークル「くろてんズ」のHと申します。よろしく願いいたします。本日は臨時保育室のおかげで、子供たちを預かっていただき参加することができました。ありがとうございます。

私たち家族は、双子の娘達の誕生をきっかけに自然豊かな環境で子どもを育てたいという思いで、5年前に黒部市に移住してきました。暮らし始めて感じたことは、今までは旅行などの非日常でしか味わえなかった綺麗な空気や美しい景色、おいしい水や食べ物、そういったものが日常の暮らしの中にあり、それがとても幸せということです。また、子育てをする中でご近所の方との交流や、地域行事などを通して、たくさんの人たちと関わりながら子供が育っていくことや、人の温かみもこの土地の魅力だと感じています。

黒部市の魅力をより多くの方に知っていただきたい思いで、「黒部で住もう移住定住サポート協議会」公募委員として、等身大の黒部暮らしの紹介などを通してPRなどを務めているところであります。

黒部市総合戦略「戦略K」第2ステージでは、持続可能な地域に向けて従来の移住定住を直接促進する取り組みに加え、定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口という新たな視点が出てきています。人口を増やす方法を考える時、外から人を呼び込むこともそうですが、今ここに住んでいる人たちに住み続けてもらうこともそうであり、子供の誕生もそうであり、いろいろな方法があると思っております。私自身、子育て中の母であり、子育てサークルを開催していることから、今回は子育て環境についてお話しさせていただきます。

移住する前は主人の仕事の都合で転勤族でした。黒部に移住して子供を介して知り合う方々や、子育てサークルに参加して下さる方々と話していると、転入や転勤族の方がとても多い土地であり、すぐに頼れる人が身近にいない状況の中で子育てに奮闘している人たちがとても多いと感じています。またこれは黒部に限ったことではありませんが、子育て＝母親の仕事のような見方が依然としてあり、それが第三者に助けを求めにくい状況を作り出しており、子供は

家庭をはじめ地域、そして社会全体で育てていくという意識の広がり、および見方の変化の必要性を切に感じております。

黒部市では黒部市イクボス宣言をしていて、この事について一市民として心強く感じておりますが、現実には仕事に追われ、なかなか家庭で過ごす時間や子育てに携わる時間が思うように取れない男性が多いように感じております。男性が子育てのために仕事をセーブすることに対し、周りの理解が得られず孤立してしまうこともあると感じております。男性が子育てに参加しやすくなる社会の実現に向けて、今後も継続して取り組んでいただきたいと願っております。男性も女性も笑顔で子育てに取り組める環境づくりについて、新たな取り組みなどお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。本日は発言する機会をいただきまして、ありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございました。ただいま、男性も女性も笑顔で子育てができる環境づくりについて、ご発言がございました。市長から回答致します。

#### 【市長】

現状を見事に描写された質問だったと思います。恐れ入ります。質問の事について私も、これはまさに痛いところをついているなと思いました。率直に申し上げます。まず男性も女性も笑顔で子育てに取り組めるという環境づくり、その中で男性がもう少しそういった事にしっかり関わられるように、思いの強いご質問だったと思いますね。私はポイントが3つあると思います。1つは自分が置かれてる職場の環境がどうかという事、1つは家庭の環境がどうかという事。もう1つは地域、あるいは社会と言ってもいいかもしれませんが、その環境。この3つが整うとおそらく男性も、あなたがおっしゃるような思いで子育てが出来るんじゃないかと思えます。どれか一つ欠けても、なかなか難しい、というふうに思っております。

4月に市長に就任しました時、高野市議会議員さんが「市長、あなたはすぐ責任もってイクボス宣言しなさい。」と迫られた。これは来たなと思いましたが、でもやっぱり市長になったら覚悟を決めてやらないといけないなという思いで、単に思い入れとかスローガンだけでイクボス宣言してはいけないと思いましたので、決意をもってイクボス宣言をしました。

その後、具体的に何をしているか、一人一人の市役所職員にあなたはどうか、あなたはどうか、あなたはどうか、とは聞いてはいません。いませんが、折に触れて職場を回ってます。はじめのころは就任したてで、なんか職員の仕事ぶりを見に来てくれているのか、監視しとるんじゃないかと思われがちだったんですけども、だんだん職員も理解してくれまして、私が何で回ってるかというところも分かってる。つまりは、仕事の中にそういった事が表れている。

もう一点は、今日、彼いないね、彼女いない、どういう環境に居るかそのことも把握する。その中に子育ての事があれば、また聞いてあげる必要がある。何でこういうこと言うかと、まずは人に言う時は態度ではじめる。自らやらないと人にはなかなか言えないと。従って私は、今おっしゃった中で一番のポイントは、多分職場のことをおっしゃりたかったんだと思うけど、私は就任した時から、自分がそういった事に取り組み始めたら、いずれは会社へ訪問した時におたくはどうしてます、という事を聞こうと思ってます。この行動を実は2年間温めていました。来年7月にも多分市長だと思えるんですけども、その時にはぼちぼち会社へ行ってどうですかと。ただ大事なことは、会社によっては交代勤務もあるし、女性だって交代勤務あるんですよ。看護師さんだってそうでしょ。このあたりをどう見るか難しいんですけど、やはり仲間というのがありますから、そこで話をしながら、一人でも二人でもそういうことを実行できれば、それが自然と輪になっていくんでないかなという期待感を持っています。行政がそのた



めの手助けをしっかりと日常的にしていく、という事が大切なんだろうなというふうに今思っております。

例えば子育ての指導とか教室とか開いた場合、残念ながら圧倒的に女性なんです。これを何とか意図的にお父さんの子育て教室とか、お父さんの育児教室とかいうふうに、具体的にしたほうがいいのかと、あるいは夫婦でなければ来れませんよと、夫婦の育児教室とかそういったものにした方がいいのかなと。Hさんのご質問を受けたときに、先程冒頭に言いましたけど、この後のうちの事業に反映できるかどうかここは保証できませんが、職員と話しながら、男性が少しでもそういう体験が出来て、出来ることによって女性の立場も理解できる、こんなふうに持っていければというふうに思います。

そのことを考えたのは何故かといいましたら、もう何十年前にもなりますけど、国際婦人連、今は国際女性連と言いますが、そのころから女性に対するあらゆる制限の削除撤廃条約、さらには男女共同参画基本法、そしてまた男女雇用機会均等法、こういった法律の中で女性がしっかり注目される。しかしその裏は、男性だってそのことをちゃんと見とれないといけないんですよ。男女共同参画ですから。女性だけ見るんじゃない。男女雇用機会均等法ですから、女性のためだけの法律のように見えますけど、男性だってそこに入る。その中で自分の立ち位置を決めて、やっぱり素直に率直にイクボスをする、あるいは子育てに入る、そういった事を、勇気をもって取り組んでいける男性が増えるように、行政としても頑張っ参ります。どれくらいのことになるか分かりませんが、よろしく。有難うございます。

#### 【事務局】

有難うございます。では、続きまして黒部商工会議所のY様にご発言をお願い致します。

#### 【黒部商工会議所 Yさん】

黒部商工会議所のYです。本日は大野市長、喉が痛い中、説明頂きまして有難うございます。重ねてですね、商工会議所の活動に理解を頂き、いろいろとご尽力を頂きまして、これもお礼をさせて頂きたいと思っております。有難うございます。

今ほど市長の説明の中にもあったと思うんですけど、来年新幹線駅は開業5周年を迎えるということになるわけなんですけど、新幹線駅周辺の政策についてお聞きさせて頂きたいというふうに思います。

黒部によく来られる方にですね、会話するんですけど、黒部って新幹線駅の周りに何も無いんだねって言われることが多いです。開業当初からですね、駅周辺には街っていうのをつくらずに、市街地等とへ誘導するような方針を取ってきたようなことはお聞きしたことがありますけれども、正直うまくいってるのかなという風に疑問が残ったりします。バスとかもありますけれども、本数も限られておりますし、行先も色々悩んでられるとは思いますが、今のままでいいのかという感じが致します。確かに街まで作る必要はないと思うんですけど、最近の新幹線駅の賑わいを考えると、黒部に来られる方、大多数の方にとって新幹線駅がいわゆる玄関口になってるんじゃないかなという風に思います。普通の新幹線駅であればですね、ホテル等、少し賑わいがあると思っておりますので、そういうのが必要ではないかなと最近は考えるようになっております。商工会議所としても賑わいづくりにはぜひ協力させていただきたいと考えておりますが、この先市として、駅周辺の政策について何かお考えがありましたらお聞かせいただきたい、というふうに思います。よろしくお願いたします。

#### 【事務局】

ありがとうございました。北陸新幹線駅、黒部宇奈月温泉駅周辺の開発についてご発言がございました。市長から回答させていただきます。

#### 【市長】

大変難しい問題です。そこで今日せつかく沢山の方がおいでなので、黒部宇奈月温泉駅、これにからんで、これまでどのような動きあったかということ私の知る範囲で経過を話します。

平成24年の9月になります。今からもう7年前になりますかね。この時に新駅の西側、つまり海側といいますか、利用者の利便ゾーンの活性化事業プロポーザル、これを公募しました。ところが応募がなかったです。平成24年ですから、27年に開業でしょ、もう3年前で相当関心が持たなければならないときに、残念ながら活性化事業プロポーザルの応募がなかった。問い合わせは聞いたところでは16社、それから情報提供したのはビジネスホテルで40社、というようなことになっております。結果は何もなかったと。

その理由があります。新幹線がまだ開業していなかったと、開業してない段階で黒部宇奈月温泉駅の乗降客数が分からないため、投資することは出来ない。まずは金沢や富山を優先し、開発競争に勝ち抜くことが先決だというふうに言われました。それを受けて、同じ年平成24年12月25日から、今度はプロポーザルがきて幅広く一般公募に変更しました。そして再度公募しましたが、これもダメでした。結果としてそういう記録が残っています。

なんでこんなこと言うかと申しますと、私は市長になったのは去年ですけど、市長になった以上は、過去のこともしっかりと皆さん方に、正直に伝える必要があるというふうに思いました。そのころ私はもちろん県会議員です。平成25年4月に、残念ながら地権者との色んなこともあって、開発計画は一旦終了になっています。その後新幹線開業以降、つまり平成27年以降ですね、黒部宇奈月温泉駅周辺の土地利用について、民間の事業者から具体的な相談は受けていません。最近、北陸新幹線が敦賀までいよいよ開業が迫ってきました。それをにらんでか、金沢よりも後ろ、富山駅前のホテルの進出が大変なことになっておると。市長としては相手は42万、県と富山市、こちらは10分の1、4万2千黒部市ですけども、やっぱり悔しいです。そう思わないとダメでしょう、市長としては。ましてうちは、東京から富山県に入る最初の玄関口の駅ですから。黒部宇奈月温泉駅を越えないと富山駅に行けないんですよ。それ越えないと新高岡駅に行けないんです。そんな事を思うと非常に悔しいです。悔しいですが、自分たちの地域をしっかりと見つめて、この後、新幹線駅をどう活かしていくのかということ、富山とは違った視点で考えなきゃならない。

冷静に見ると、県と富山市の駅、新高岡駅、そこを中心においてコンパスを書いた場合に、おそらく黒部宇奈月温泉駅ほど小さいコンパスの中に温泉街があるところはないです。宇奈月温泉がいかにかこれから伸びていくか、活かしていくか。このことも考えつつ、宇奈月温泉駅周辺の民間の進出を期待しているということがあろうと。それからYさんのお話にもあったとおり、駅へ降りた方を市街地へ誘導する、この作戦もとる必要あると思います。しかしながら、あれだけの黒部宇奈月温泉駅ですから、その周辺を何らかの形で早いうちに、もう少し人が集まる留まる駅へ。そういったものを考えていくことは、総合振興計画後期あたりに具体化できなくても、考えていく時をしっかりと持つべきだろうなというふうに思っています。残念ながら今のところはそういう状況です。以上です、有難うございます。

#### 【事務局】

有難うございました市長。まあ、あの、商工会議所としてもですね、やはり時間がそれだけ経ってきたんで、また違う考えも当然いま市長が言っていたように何とかしたいという思

いは一緒ですので、あの民間と行政ということで、一緒に頑張っってやっていきたいと思ひますので、これからもよろしくお願ひします。ありがとうございました。

#### 【市長】

ひとつ加えます。先程お話ししましたけども、宇奈月温泉駅からトロッコに乗って樺平へ行きます。一般の方はそこから上へは普通は行けません。公募見学会で2,000名は年間行けます。あるいは関西電力の会社のお客さん、社客といわれる方は樺平からトロッコにそのまま乗ってインクラインやバスを使って、黒部ダムに出ることはできる。それがあと4年半ぐらいで、年間1万人ですが商品化されて行くことが出来る。それが、宇奈月温泉が伸びる要素にならなきゃならないし、すべきだろうと。そのあたりは商工会議所の方々とも連携しながら、あるいは観光局とも相談しながら、是非ここはひとつ、一般開放されればジャスト。

立山黒部アルペンルートと今申し上げた黒部の関電ルートとごっちゃになってる人が日本中にいっぱいいるんですよ。私もあちこち視察行きますけど、お会いしたら黒部峡谷鉄道のことお話しすると、アルペンルートの話をしてると誤解する人がいる。それを解くことが必要です。そういう方がまだ多いってこと。もっと酷い話しをしますと、「黒部市長さっきから海の話してるけど、黒部はダムがあつて海はないでしょ」っていう、そういう方もおられるんですから。これは裏を返すとまだまだ伸びしろがあるという事なんです、黒部は。宣伝が足りないという事。もっと宣伝して伸びしろが、黒部ルートがダムまで行けば、今度は「いやあ、あそこは凄山、峡谷があつて、海が近くて、美味しい魚も食べれるんだ」と。従つて、前の日に宇奈月温泉に泊まった。さあ樺平からダムへ上がりましょう。ダムから、長野へ行かれようと、アルペンルートへ行かれようと、あるいは朝、立山黒部アルペンルートからダムへ出られて、ダムからまっすぐ宇奈月温泉へ来る事が出来る。夕方、宇奈月温泉へ泊まりましょう。そういった事を観覧しながら、宇奈月温泉新幹線駅の発展を考えていきたいと思ひています。質問有難うございました。

#### 【事務局】

有難うございました。それでは続きまして黒部青年会議所のY様にご発言をお願いいたします。

#### 【黒部青年会議所 Yさん】

黒部青年会議所のYと申します。今日は貴重なお話し、お聞かせいただきまして本当に有難うございます。また常日頃から当青年会議所へのご理解ご協力頂きまして本当に有難うございます。私からはですね、本日「戦略K」ということで、お話し頂いたんですけども、その内容というよりかは、第二次総合振興計画の中の方でのお話という事で。

我々青年会議所としては、ずっと北方領土に関する問題という事で、設立以来43年経ちますけども、設立以来ずっと取り組んできている問題でございまして、私自身も入会してからずっと北方領土の問題に関心を自分なりに高くもつて運動に取り組んできたつもりではあります。今年の6月に北方領土の色丹島に訪問する機会も頂きまして、実際行って来たわけなんですけども、色丹島に降りた瞬間にですね、もうこれは日本ではないなあと、本当にもう肌で、目で感じたところでありまして、行く先々は当然ロシアの建物、ロシアの方が住んでおられると。向こうのサハリンからの自治区の会長さんが来られて、我々の土地へようこそという歓迎を受けると、私自身は国内の視察という認識で当然行って来たんですけども。帰つてきて友達とかに北方領土行って来たんだと言うと、「あ、ロシア行って来たんか」と、もうそれが現実じゃないかなと、感じております。

そういった中で、第二次総合振興計画の中でも北方領土に関する取り組みという事で記載があるんですけども、これで戦後74年経ちまして、元島民の皆様、この当事者と言われ熱い想いをもって活動されてる皆様もかなり高齢化もされてきて、なかなか戦後直後のような活動も、当然ながら難しいという中で、我々若い世代がそれを引き継いでやっていかなければならないというのは思っているんですが、この問題の継承という意味で、国であったり宮腰議員も当然取り組んでされております。けれども、我々としては黒部市は根室とも姉妹都市の提携も結んでいるというなかで、引き揚げ者もたくさんおられるという中で、黒部市としてもやはり取り組んでいかなければならない問題だというふうに思っておりますので、この問題の継承というところでは黒部市としてはどのように考えておられるのかなと思ひまして、その点をお聞かせ頂ければなと思ひます。

#### 【事務局】

有難うございました。ただいま北方領土の返還要求運動の継承についてご発言がございました。では、市長から回答させていただきます。

#### 【市長】

有難うございました。そうですね、多分フロアにお越しの方は北方領土から引き揚げた方々、北海道に次いで富山県は2番目に多いという事はご存じだと思いますね。当時、終戦直後に17,291人が引き揚げました。そのうち富山県は1,425人これが2番目に多いです。実際はもっと私は多いと思ひますね。何故かと言ひましたら、北海道の根室あたりに相当残られた。この方々は富山県の人数に入らなから、実際はもっと多いと思ひます。

今ご質問されたご本人も島へ行かれて、率直なご意見でありましたけども、実は私も返還運動に携わってから意識してから43年経ちます。国も色々やっておりますけど、官民挙げて返還運動はしてますが、島は何も変わらな。北方領土と言われる国後島、色丹島、択捉島、歯舞群島は未だにロシアに、具体的に言うると占拠された状態になっていると。特に歯舞群島という島は、圧倒的に富山県の方がそこに住んでた。一番、根室に近い所です。この状態がずっと続いて、いつになったらこれ解決するんだと、確かに島へ渡るごとに島はロシア化しているというふうに言わざるを得ません。従って、それで諦めるのかと、諦めたらもうお終いです。

私はこの運動に取り組んできまして、当たり前のことを当たり前にする運動だと言ひてきました。それは何故か。日本固有の領土だからです。それを終戦後、不法に占拠したという事実があります。最近、一番気になりますのは日露共同経済活動をやりましよう、それも島を返してもらつための一環だという事で政府は取り決めました。ところが今回、つい先日です。日露共同経済活動をやるための試行、パイロット事業としてやった中で、日本からパイロット事業に参加した方々に対して島へ行ったら北方領土と呼んでくれるなど、北方四島と呼んでくれと。これは何を意味しているかと、単にロシアに対する配慮なんですね。戦後、ずっと日本の国も北方領土という事で返還運動をやってきたにも関わらず、ここへ来てパイロット事業に参加した人たちに、あなた方は北方四島と呼んでくれという言い方をします。非常に私はこれには抵抗を感じています。戦後ここまで、何をやってきたのかと。

これから元島民も亡くなってきます。もう既に何人も亡くなりました。しかし、勘違ひしてはいけないのは、この返還運動というのは領土問題なんです。島に住んでおられた元島民の為のだけの運動ではないんですよ、これは私は元島民にも言ひてあります。元島民の方々は当時の戦前・戦中・戦後のことを全て知っているんだから、あなた方こそが生き証人としていっぱいしゃべらんといかんのかという話をしています。従って、これからそう言ひた方々がいなく

なって生の声がなくなると、ロシアって国はますます定義してくる。自分の島だってことで。そうすると弱るので、若い人に運動の後継を担ってもらえない。

もう一つは、学校教育の中でしっかりと領土問題を教える。一人でも多く青少年の方々に根室へ行ってもらう。島へ渡るのもなかなか大変なんですよ、一部の人しか行けませんから。Yさんも選ばれた人、選んだ本人は私です。何故選ばれたかという、青年会議所は頑張ってるからです。島へ渡れるようになってからわずか28年かな、平成4年に初めて島へ渡れるようになった。日本海に対してわずか1万3千人余りです。これ累積数ですよ。だから同じこと何回もやってる人いますから。そういう状況の中でしか行けないんです。従って、なかなかかゆい所に手が届かないみたいなどころがありますけど、私は地道にやっていくしかないというふうに思ってます。とくに若い人、学生、ここにしっかりと実情を学んで頂いて、諦めずやってくということしかないんじゃないかなと。特に全国の方々は当然、北海道、そして富山県の運動のやり方に注目してまいす。だからいい意味で引率者的な思いで返還運動に取り組んでいく必要があるだろう。間違いなくこれは日露間における領土問題です。簡単に言いましたけど、以上でよろしいでしょうか。

#### 【黒部青年会議所 Yさん】

本当にどうもありがとうございます。我々青年会議所、40歳で卒業ということで、私自身も卒業してからもう2年ですけど、何か取り組みたいなと思っても正直受け皿がないというのを感じておりました、後継していくという意味では私のようなものでも、また継続して取り組んでいるような受け皿が黒部市としてあれば素晴らしいなと思いますし、青年会議所に入っても、そういう活動には携わりたいという人間もきつといると思いますんで、是非そういったところがあれば嬉しいなと思います。ありがとうございます。

#### 【事務局】

ありがとうございます。事前にご発言の通告をいただきおりました方々は以上になります。それでは引き続き、会場の方からご発言をいただきたいと思っております。ご発言をされたい方は挙手をお願い致します。

#### 【大布施 Hさん】

大布施地区のHでございます。ここへ来るまでにパッシブタウンとか、この近くとか、非常に黒部市も明るい町、活気のある市というんですか、そういう観点からいきますと、背骨道路の上の方の先程も出ました新幹線の活かし方、これはよそでなく市そのものが活用しなければならぬんじゃないかなと。以前は黒部市の黒部祭りというのがありまして、非常に盛んでした。くろべ踊りもあったんです。黒部も伝統芸能があって、布施谷踊りとかしばんばとか、獅子舞ですか7カ所ほどありますけど、こういうものを新幹線の広場とかでやればどうか。ただしこれは毎年だと大変ですけど、3年ごととか何年ごとかに働きかけて。

それから特産品なんかは素晴らしいものがあるんですけど、別々に売られてるでしょ。あれをまとめて新幹線の付近でやっていただければなと。というのは私、新幹線へ月2回ほど行きます。

それからもういろいろクローバーの時もすごかったの、市長の働きもあったんじゃないかと。親戚も来たんですけど「ちょっと寄るところはないわ」と。名水マラソンで大阪から来ております。でもちょっと休憩するところがない。泊まるところはいりません。語るどころ、とくにね、働き方改革で言われる若者の語る場所がない、あの新幹線のあたりに。ハードはちょっと無理でソフトの時代と言われるんですけど、あまり大袈裟でなくてもいいんじゃない。

もう1点、あそこに黒部名水とあるけど看板はどうか。水飲む場所、横にちょぼちょぼとあるんですけど、あれ宇奈月の観光客も「あ～これ水飲む場所か」と。あの中間のあそのあたりに水飲み場とすっきり簡単なもの、名水と語ろうかということで、愛嬌のある立場でして、新幹線のあれを活かすと、地元がまず活かすという事も考えなければならぬんじゃないかなと思うんですけど、市長さんのご意見頂きたい、以上です。

#### 【事務局】

H様、ありがとうございました。ただいま二点ほどご質問あったかと思うんですけど、まずは新幹線周辺での特産品とかしたらいいんじゃないかということと、獅子舞など郷土芸能でございますので、そういうことやったらいいんじゃないかというようなお話。二つ目は名水をうたっている黒部市でありますので、水を飲む場所とか名水と語ろうとか、そういうことは地元からもしていかなきゃいけないんじゃないかというようなお話だったかと思うんですけども、このことについて市長から今ご回答させていただきます。お願い致します。

#### 【市長】

今のご質問にお答えする前にちょっとあの私ひとつ、先程の説明の中で日にち間違った事あったようです、お詫びして訂正いたします。あの中学校の閉校式当初3月14日だったんですが、途中から15日の日曜日に切り替えました。その理由は14日に実は黒部宇奈月温泉駅の開業5周年記念イベントをやるつもりです。これを3月14日土曜日にやりますので中学校の閉校式は一気に4校とも15日、3月やります。すいません。自分でやっていながら間違いました、申し訳ないです。

Hさん、いつもありがとうございます。郷土芸能等につきましては私自身も若いころから取り組んできた一人でありますので、非常に身に染みるものもあります。ただその地元のそういう芸能披露するときは、どういう形でどういう場所を選べばいいのか、例えば今回が私5周年と申しあげましたけど、そういった事で節目の時にああいう駅を使って郷土芸能披露するとかいった事もいいんだろうと思います。ただ日常的にやるというのは、なかなか難しゅうございまして、節目、節目でそういったチャンスを活かして駅前に少しでも賑わいを持っていくことについては意識をしていきたいと思っております。

それから水飲み場については、もうちょっと分かりやすくしなさいという意味だと思うんですが、あそこに少しありますよね、確かに。それもまたうちの担当課とも話をして、あれでいいかどうか、私も市長になってから改めてあの辺回りました、色んな思いもありますので参考までに受け止めさせて下さい。有難うございます。

#### 【事務局】

ありがとうございます。もうひとつ、手の拳がった方がいらっしゃるので、お願い致します。

#### 【富山モノノフ Mさん】

大野市長、貴重なお話をありがとうございました。富山モノノフのMと申します。昨年の黒部市が大きく盛り上がった1つのイベントとして、ももいろクローバーZ 春の一大事という大きなライブが、やはり黒部という名前をとっても大きく売った一大イベントだったんじゃないかなと思います。経済効果も6億円というニュースが全国を駆け巡りまして、富山だけではなく、全国の方を驚かせる結果になったんじゃないかなと思います。ファンの中にはですね、本当に今でもライブの痕跡を求めて聖地巡礼という名で、黒部に旅行しに来るといの方がとても

多くいらっしゃいます。本当に宇奈月温泉に泊まりましたという人とか、かなり多くの反響を SNS 等で確認してるんですけども、そういった意味で昨年度のイベントというのは新たな黒部のファン層を多く生み出す結果になったんじゃないかなと思っております。やはりそういうファン層の方は SNS を使う方がとても多いので、ももクロさんを目当てにご来県された際に新たな黒部の魅力を発見してそれを SNS で拡散するっていうことも多く見られるかなと思っております。市長にお伺いしたいんですけども、ももクロさんのライブを通してどのような収穫があったのかと、この盛り上がりを継続するためにどのような展望をお考えなのか、よろしければお聞かせください。

#### 【事務局】

ありがとうございます。ももクロのライブを通して、市としてどのような成果があったかということと、次にどのように展開していきたいかというご質問だったかと思っておりますけど、あと SNS の発信について、市長よりご回答させていただきます。

#### 【市長】

ありがとうございます。夢のある質問でうれしく思います。まず冒頭に、黒部でのライブが決まった時に、一部のファンの方が何でこの凄いライブを黒部のダムでやるんだと、逆に私が驚かされたこともありましたが、そういう方も含めて黒部に来られたら、黒部って本当に凄いところだなと。コンサートのあった会場からキレイに海が見えると言ったことが印象に残ってます。経済効果は予想以上に出たんですけど、ご指摘のあった通り、あれだけのライブをやったので、後に何か残るようなと思ってます。あれだけ大きいものは中々呼んでこれないです。したがって期待するのは、黒部の宮野運動公園、上にある野外ステージ、ここを1つにしてコンサートをやったという実績が全国への宣伝となったので、今度、是非、どこかの取材者がそこへ来てくれないかと、或いは我々が売り込んでいくなどをしてみたいと思っています。簡単なことではないですが、私のところへ、例えば、あそこのももクロ凄かったらしいから来たいといった会社があったり、非常にありがたい話です。我々職員としても打ち上げ花火で終わってはいけないので。ただし、おっしゃった通りにいまだに残っているというのはありがたいです。今のご質問を十分に尊重して、これからも頑張ってまいります。

#### 【事務局】

ありがとうございました。予定の時刻に近づいておりますので、ご質問はあとおひと方でお願います。どなたかございますか。

#### 【石田 T】

石田地区のTと申します。夢物語を申し上げるようで申し訳ないのですが、中坪に農協のスタンドがあるじゃないですか。あそこから魚津の方へ、県道でも何でもいいんですけど、道路1本つけたらもの凄く変わるんじゃないかと。先ほどの話ではないですけど、婚活も進むんじゃないかと、私なりに思っております。新川牧場の上を通過して、魚津の労災病院近くの新しい道まで、通ればいいなと私なりに思います。魚津には松下さんもおられますし、黒部にはYKKさんもおられますし、入善さんも工場が増えておられますので、産業も進むのではないかと、旧8号線を通らなくても、横に一直線で通れるので。お金のことも絡むので何とも言えないですけど、もし考えていただけたらと思います。

#### 【市長】

黒部宇奈月温泉駅から魚津方向に向かって新しい道路の整備計画があります。今おっしゃった箇所の重要度は現時点ではわかりません。したがってうちの職員に話を聞いてみますが、間違いなく言えることは、新幹線駅に集中させないといけないですから、そこから発する道路計画をまず見つめていただければありがたいと思います。

#### 【事務局】

これまでたくさんの色々なご意見、ご提案いただきました。予定の時刻になりましたのでこれもちまして意見交換の時間を終了させていただきます。

それでは本日のタウンミーティングの閉会にあたり、本日お集まりいただきました皆様へ、お礼の意味も込めまして大野市長からご挨拶を申し上げます。

#### 【市長】

皆様おそくまでありがとうございました。ようやく風邪が治りつつある中でのガラガラ声でしたが、話の中身はわかりましたか？どうぞご遠慮なく、何かありましたら市長室へお越しください。私が空いている限り、お相手します。この1年7ヵ月、いろいろなお客さんがこられ、お会いしまして、私がいる限りは5分でも10分でも、皆様方のお顔を見て色々な意見をお聞かせいただきたいと思います。市長も1人の人間でありまして、市長になったからといって物事が分かる訳ではないです。むしろ色々な方とお会いすることが多いので、情報が集まります。そういったことを考えつつも、市長としての役割を、色々な黒部市民の方々、本当にこれがベストだと言っていただけのように、日々努力してまいりますので、これからもよろしく願います。以上です、ありがとうございました。